

平成26年度広野町災害廃棄物等の減容化処理業務
に係る生活環境影響調査書

概要版

平成26年9月

環境省

第1章 事業計画の概要

本業務は、東日本大震災により発生した広野町内の災害廃棄物のうち可燃系ごみを処理するため、広野町からの処理代行要請を受けて、国が仮設減容化処理施設を設置・運営するものである。

なお、本施設では、広野町からの委託を受け、除染廃棄物のうち草木破砕物等の可燃物及び農林業系廃棄物を合わせて処理する。

1. 計画の概要

(1) 施設において処理する廃棄物

処理対象物は、広野町において東日本大震災により発生した災害廃棄物、除染廃棄物のうち草木破砕物等の可燃物及び農林業系廃棄物でその総量は 42,000 トンを想定している（表1）
処理期間は約2年間を予定している。なお、ごみ質は低位発熱量で 5,000～11,300 (kJ/kg)と見込まれる。

表1 処理対象廃棄物

種別	内容	発生場所
処理対象物	・災害廃棄物 (タイヤ、畳、木材、布団等)	広野町内
	・除染廃棄物(除草・草木類)	
	・農林業系廃棄物	

(2) 施設の処理能力

建設する仮設減容化処理施設の処理能力は、80t/日（80t/24h×1 炉）である。施設の稼働日数は平成27年度は285日、平成28年度は245日を予定している。

第2章 生活環境影響調査項目の選定

生活環境影響調査項目は、大気質、騒音、振動及び悪臭とする（表2）。なお、プラント排水は施設内で再利用し放流しないことから生活環境への影響を与えないことは明らかであるため、水質汚濁については調査を実施しない。

表2 生活環境影響要因及び生活環境影響調査項目

調査事項	生活環境影響要因					
	生活環境影響調査項目	煙突排ガスの排出	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	
大気環境	大気質	粉じん	—	—	×	—
		二酸化硫黄 (SO ₂)	○	—	—	—
		二酸化窒素 (NO ₂)	○	—	—	—
		浮遊粒子状物質 (SPM)	○	—	—	—
塩化水素 (HCl)		○	—	—	—	
ダイオキシン類 (DXN)	○	—	—	—		
その他必要な項目 (放射性物質 (¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs))	○	—	—	—		
	騒音	騒音レベル	—	—	○	—
	振動	振動レベル	—	—	○	—
	悪臭	特定悪臭物質濃度または臭気指数 (臭気濃度)	○	—	—	○
水環境	水質汚濁	生物学的酸素要求量 (BOD)	—	×	—	—
		または化学的酸素要求量 (COD)	—	×	—	—
		浮遊物質 (SS)	—	×	—	—
		ダイオキシン類 (DXN)	—	×	—	—
		その他必要な項目	—	×	—	—

備考：○印は生活環境影響調査を実施する項目
×印は影響が無い、又は軽微であるため生活環境影響調査を実施しない項目
—生活環境影響要因が無い場合調査、予測を実施しない項目

第3章 生活環境影響調査の結果

1. 大気質

長期予測ではバックグラウンド濃度を重合した将来濃度を算出し、短期予測では最大着地濃度を「大気安定度不安定時」、「上層気温逆転時」、「接地逆転層崩壊時」、「煙突によるダウンウォッシュ発生時」の4 ケースについて算出した。

(1) 長期平均濃度予測フロー

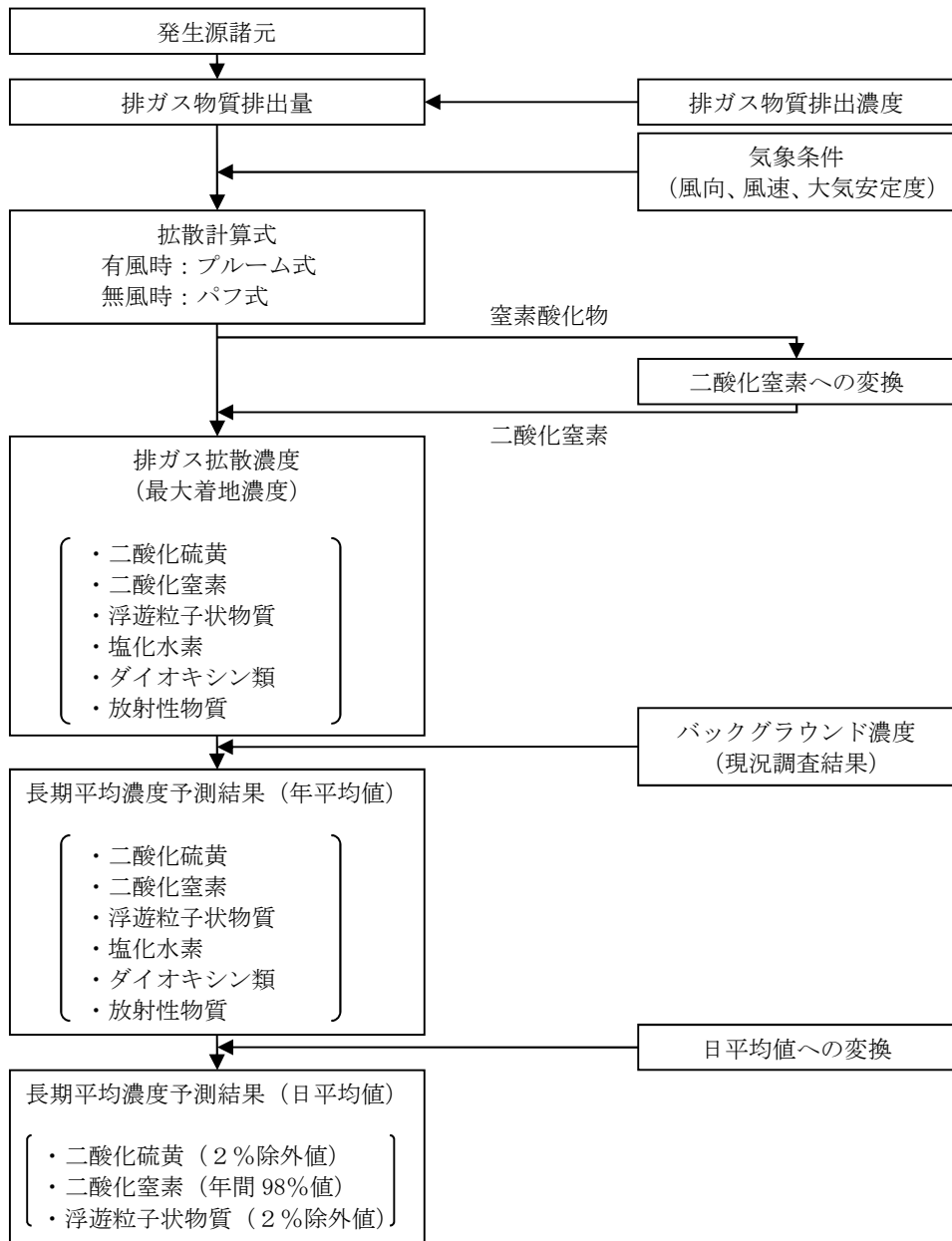
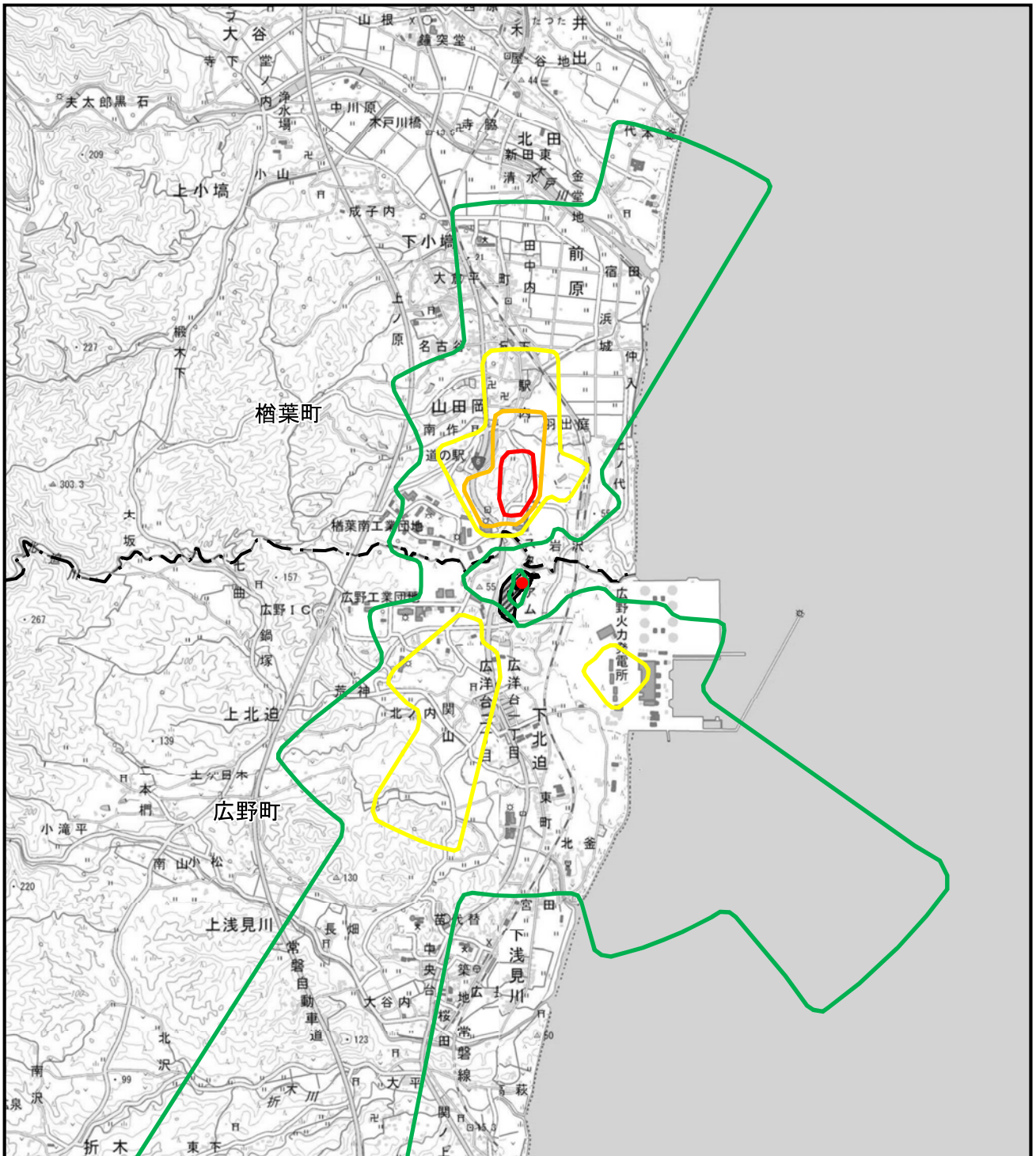


図1 排ガス予測フロー(長期平均濃度)

(二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、放射性物質)

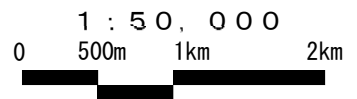
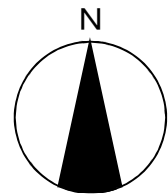
(2) 長期平均濃度予測結果

煙突排ガスによる長期平均濃度の寄与濃度分布例は、図2 に示すとおりである。最大着地濃度は煙突の北側約0.7km の地点である。



凡 例

- | | | |
|------|-------|-------------|
| 業務用地 | — | 0.00012 ppm |
| 町界 | — · — | 0.00009 ppm |
| 煙突 | ● | 0.00006 ppm |
| | — | 0.00003 ppm |



この地図は、国土地理院発行の「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震対策用図[5 万分の 1] (川前、井出)」を使用したものである。

図 2 長期予測結果による寄与濃度の等濃度分布図 (例)
〔二酸化硫黄〕

(3) 短期平均濃度予測フロー

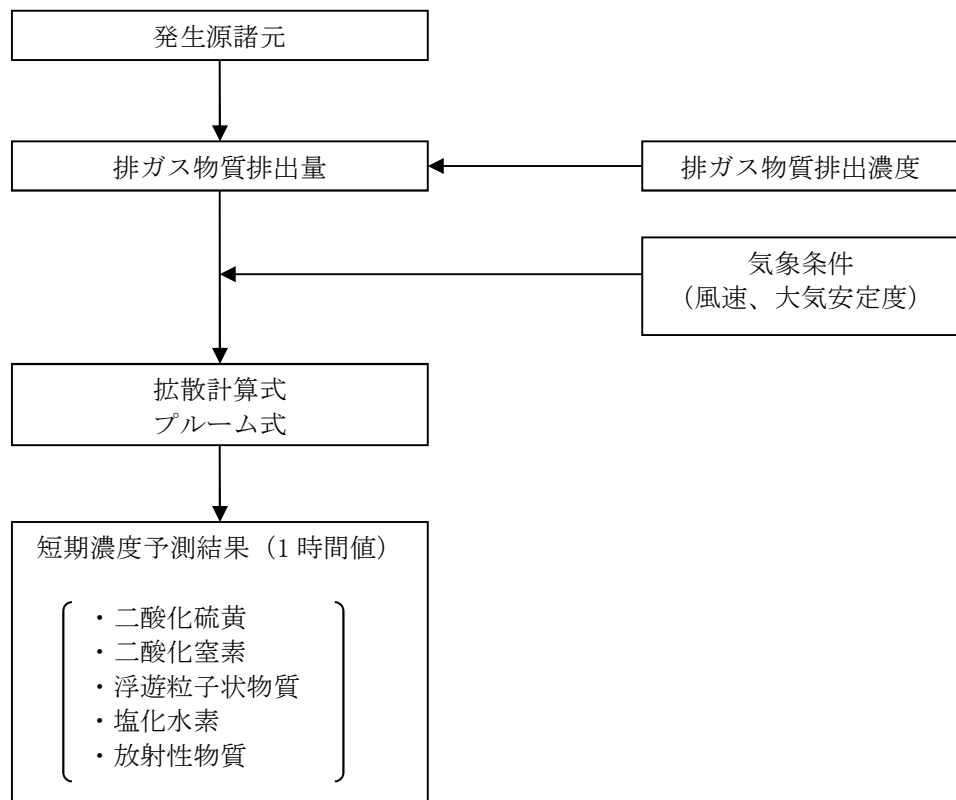


図3 排ガス予測フロー(短期平均濃度)

(二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、放射性物質)

(4) 短期平均濃度

煙突排ガスによる短期予測による距離減衰例は、図4 に示すとおりである。

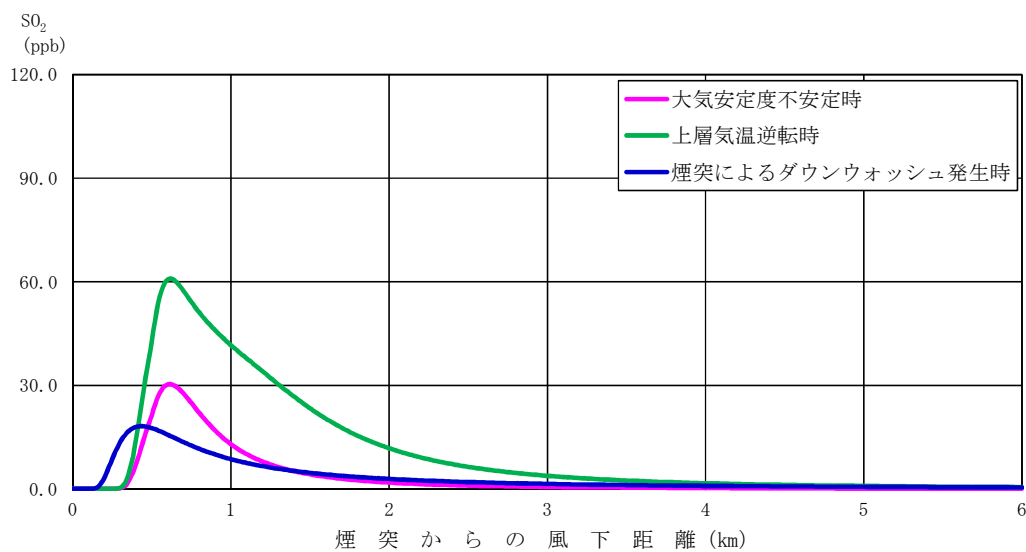


図4 二酸化硫黄の短期予測結果による距離減衰

(5) 予測結果の評価

煙突排ガスの排出に伴う大気質の長期平均濃度の予測結果は表3に、短期平均濃度の予測結果は表4に示す。環境保全目標と比較すると、各項目とも環境保全目標を下回った結果となっており、施設稼働による周辺地域の生活環境への影響は軽微であると評価される。

表3 煙突排ガスの排出に伴う大気質の予測結果（長期平均濃度）と生活環境の保全上の目標との整合性

項目	単位	予測結果	生活環境の保全上の目標	整合性
二酸化硫黄 (日平均値の年間2%除外値)	ppm	0.00560	年間2%除外値が 0.04以下	○
二酸化窒素 (日平均値の年間98%値)	ppm	0.00818	年間98%値が 0.04~0.06の ゾーン内またはそれ以下	○
浮遊粒子状物質 (日平均値の年間2%除外値)	mg/m ³	0.04450	年間2%除外値が 0.10以下	○
塩化水素 (年平均値)	ppm	0.001169	年平均値が 0.02以下	○
ダイオキシン類 (年平均値)	pg-TEQ/m ³	0.003248	年平均値が 0.6以下	○
放射性物質 (年平均値) $\frac{^{134}\text{Cs}(\text{Bq}/\text{m}^3)}{20(\text{Bq}/\text{m}^3)} + \frac{^{137}\text{Cs}(\text{Bq}/\text{m}^3)}{30(\text{Bq}/\text{m}^3)}$	—	0.002002	年平均値が 1以下	○

注：予測結果にはバックグラウンド濃度を含む。

表4 煙突排ガスの排出に伴う大気質の予測結果（短期平均濃度）と生活環境の保全上の目標との整合性

項目	単位	予測ケース	予測結果	生活環境の保全上の目標	整合性
二酸化硫黄	ppm	大気安定度不安定時	0.03034	0.1以下	○
		上層気温逆転時	0.06090		
		接地逆転層崩壊時	0.08192		
		煙突ダウンウォッシュ発生時	0.01814		
二酸化窒素	ppm	大気安定度不安定時	0.00759	0.1~0.2以下	○
		上層気温逆転時	0.01523		
		接地逆転層崩壊時	0.02048		
		煙突ダウンウォッシュ発生時	0.00454		
浮遊粒子状物質	mg/m ³	大気安定度不安定時	0.00243	0.20以下	○
		上層気温逆転時	0.00487		
		接地逆転層崩壊時	0.00655		
		煙突ダウンウォッシュ発生時	0.00145		
塩化水素	ppm	大気安定度不安定時	0.00355	0.02以下	○
		上層気温逆転時	0.00713		
		接地逆転層崩壊時	0.00958		
		煙突ダウンウォッシュ発生時	0.00212		
放射性物質 $\frac{^{134}\text{Cs}(\text{Bq}/\text{m}^3)}{20(\text{Bq}/\text{m}^3)} + \frac{^{137}\text{Cs}(\text{Bq}/\text{m}^3)}{30(\text{Bq}/\text{m}^3)}$	—	大気安定度不安定時	0.00003	1以下	○
		上層気温逆転時	0.00007		
		接地逆転層崩壊時	0.00009		
		煙突ダウンウォッシュ発生時	0.00002		

注：予測結果にはバックグラウンド濃度を含まない。

2. 騒音

(1) 施設稼働に伴う騒音予測フロー

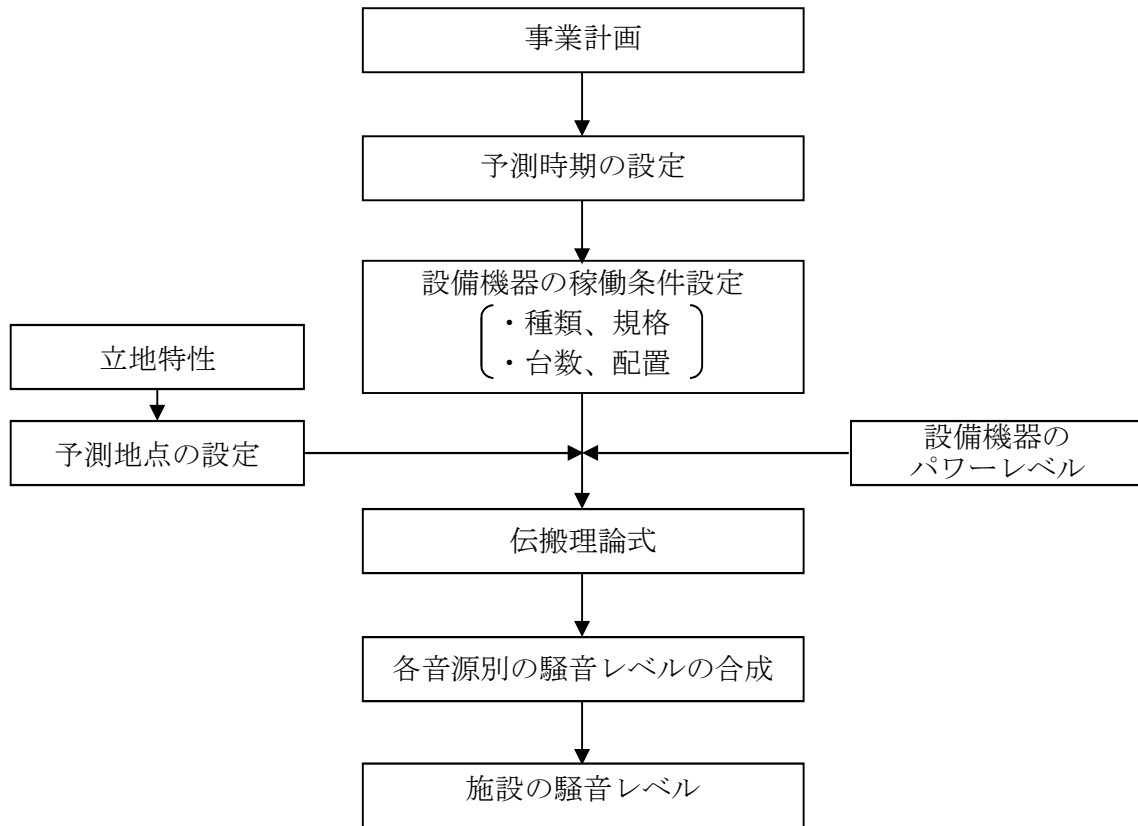


図5 施設稼働に伴う騒音予測フロー

2) 予測結果の評価

業務用地境界における予測結果の最大は 46 デシベルと環境保全目標を下回っており、施設稼働に伴う騒音による地域の生活環境への影響は軽微であると評価される。

表5 騒音に係る環境保全目標と予測結果

項目	環境保全目標	予測評価値
騒音	朝 (6時～7時) : 55 デシベル以下 昼間 (7時～19時) : 60 デシベル以下 夕 (19時～22時) : 55 デシベル以下 夜間 (22時～6時) : 50 デシベル以下	最大 46 デシベル

3. 振動

(1) 施設稼働に伴う振動予測フロー

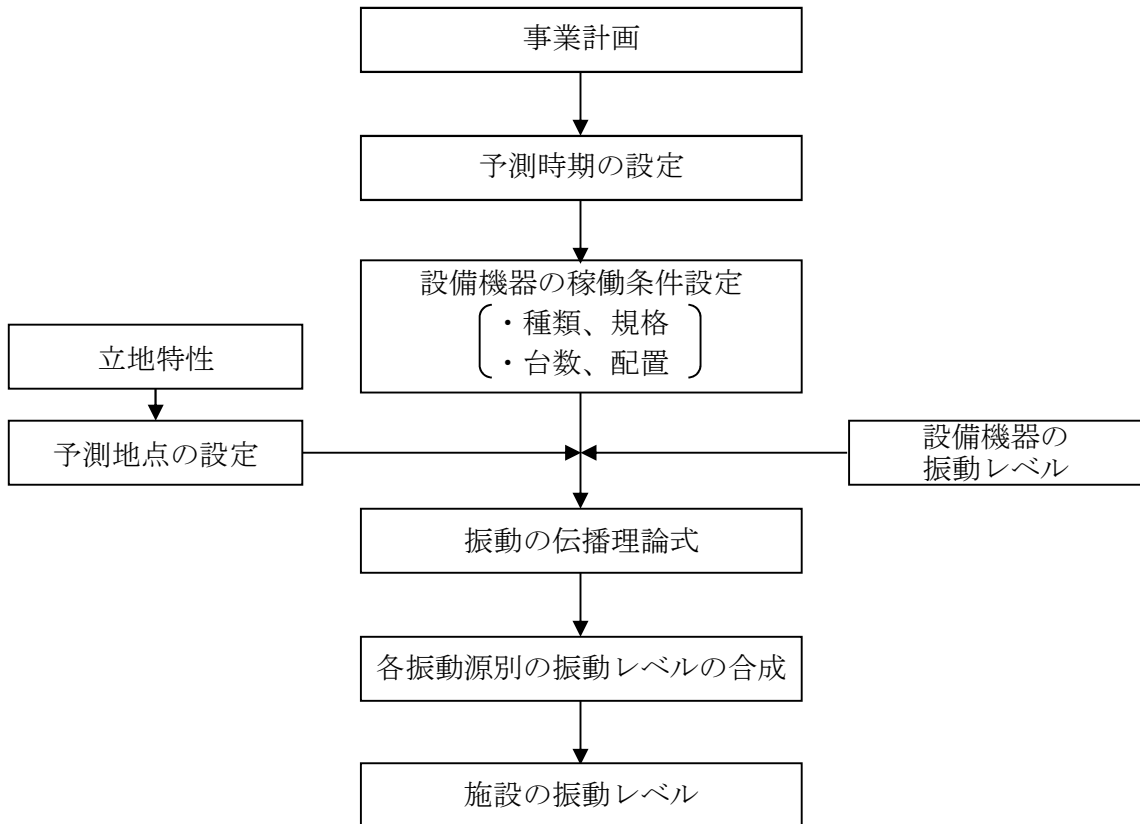


図 6 施設稼働に伴う振動予測フロー

2) 予測結果の評価

業務用地境界における振動レベルの最大は 50 デシベルと環境保全目標を下回っており、施設稼働に伴う振動による地域の生活環境への影響は軽微であると評価される。

表 6 振動に係る環境保全目標と予測結果

項目	環境保全目標	予測評価値
振動	昼間（7時～19時）：65 デシベル以下 夜間（19時～7時）：60 デシベル以下	最大 50 デシベル

4. 悪臭

(1) 煙突排ガスの排出に係る悪臭予測フロー

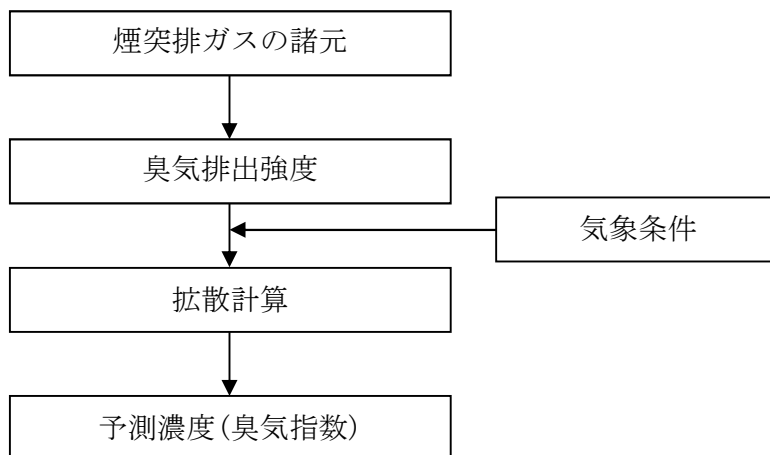


図7 煙突排ガスの排出に係る悪臭予測フロー

2) 予測結果の評価

最大着地濃度出現地点における臭気濃度の予測結果は、大部分の地域住民が日常生活において臭気を感じない「10未満」と環境保全目標を満足しており、施設稼働に伴う煙突排ガスの臭気による地域の生活環境への影響は軽微であると評価される。

表7 悪臭に係る環境保全目標と予測結果

項目	環境保全目標	予測評価値
煙突排ガスの臭気濃度	大部分の地域住民が日常生活において臭気を感じない程度	10未満
施設からの悪臭	生活環境に著しい影響を与えないこと	悪臭の漏洩は抑えられる

第4章 総合評価

本施設の稼働に伴う生活環境への影響に関して、大気質、騒音、振動及び悪臭を調査対象として、施設整備計画を元に予測・評価した結果、各項目共に環境保全目標を満足する結果となった。

なお、本施設稼働後は環境モニタリングを適宜行い、環境に影響が生じる恐れがある場合は、速やかに保全対策を実施し、環境保全に万全を期すものとする。